
ただ第二部隊がミッションに行くお話

にわか者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ただ第二部隊がミッションにいくお話

【コード】

N9829P

【作者名】

にわか者

【あらすじ】

第二部隊のタツミ、カノン、ブレンダンがミッションへ行く話。

「それでは、すぐに出撃の準備を。」

「OK、じゃあね、ヒバリちゃん！」

「……ようー、皆。元気か？ここじゃ普段のオレらの仕事ぶりを紹介させてもらっぜー！」

いまから行くミッションはサイドカー。なんでも空母にヴァジユラが二体も出たらしいぜ。

本当ならこつという討伐主体のミッションは、第一部隊のヤツらの仕事なんだが、

あいにく、出払っていな。

代わりにオレら第二部隊が向かうことになったってわけだ。

「ブレンダン、カノン、緊急のミッションだ。」

すぐに移動用のヘリポートまでこい。いそげよー！」

「了解。」

「はい、わかりました。」

さて、招集も済んだし、オレもいくとするか。

——移動用ヘリポート——

「おお、ブレンダン。早いな。」

「リーダー。カノンがまだのようです。」

コイツはブレンダン・バーデル。バスターブレードの神機をつか
つていて、

腕もなかなかの頼れるやつだ。

「ったく。急げつつつてんのに、アイツは。」

「……すみません！おくれましたあ！」

「おせえぞ！カノン。早く乗れ。」

「はい！すみません！」

まあこれはまだカワイイもので、本当に困るのはこれからだ。

——愚者の空母——

「あ、アレじゃないですか？」

「そうだ。よし、まだ一体しかいない内に片付けるぞ。」

ブレンダンとオレで切り込みにいく。カノンは後方への注意と援

護を頼む。

「はい。」

「よし、いくぞー!」

オレとブレンダンは一気に標的との距離を縮める。

こちらに気づいたヴァジュラは咆哮を上げ、飛び掛ってくる

「つとあぶねえ!」

それをかわしてブレンダンが切りかかろうと神機を振り上げた瞬間、

ヴァジュラとは違う方向からの攻撃がブレンダンを直撃した。

「っがは!」

攻撃が来た方向を見ると、カノンが舌打ちしながら、ブレンダンをにらんでいた。

「ちつ。・・・射線上に立つなって、私言いませんでしたか?」

はあ。出たよ。

そう、コイツはミッションになると性格が急に豹変する。

しかも、より攻撃的になり、味方であろうとかまわず爆発系のバレットを打ち込む。

そのため、全支部で？1の誤射率を誇るのである。

「・・・すまない。カノン。気をつける。」

なんでオマエが謝るんだよ！明らかな誤射だろ！

などと思っていると再びヴァジユラが攻撃をしてくる。

「くっ！食らうかよ！」

自分の使うナイフ型神機の特徴を活かし、ヴァジユラの顔に斬撃を叩きこむ。

その攻撃にひるみ、スキをみせるのを見逃さなかった。

「よし！全員目え伏せろ！」

服からスタングレネードを取り出し、地面に叩きつける。

放たれたまばゆい光にヴァジユラは身動きが取れなくなった

「いまだ！ブレンダン！」

「ハアア！・・・チャージクラッシュ！」

振り下ろされたとどめの一撃で、ヴァジユラを撃破した。

「ふう、まず一体だな。」

と、気を抜いた瞬間、後ろからの放電攻撃により、タツミは吹き飛ばされた。

「リーダー！カノン、回復弾を頼む！」

ブレンダンはすぐに新たに現れたヴァジュラへ向かった。

やべえ・・・しびれて体がうごかねえ。カノン、早く回復弾を

「なにやってるんですか？自分で回復してください。」

は！？オマエ本当に医療班なのかよ！あんのやろう・・・

とはいえこのまま追撃されればさすがにまずいので、回復錠を取り出して飲んだ。

「・・・く、はあ。」

標的のほうを見ると、ブレンダンが応戦をしているところに、カノンが射撃をしようとしていた。

やべえ！あのままじゃまた――

「ブレンダン！よける！」

叫んだときにはすでに遅し。再びカノンの銃撃がブレンダンに直撃した。

「っがはー！」

またかあああああ！！

「だから……射線上に……立つなっていつてんだろがあああ
！！！！」

オマエの誤射だろがあああああ！！

そしてカノンが大量に連射した銃撃はもともと手負いだったヴァ
ジユラもろとも

直撃して、ミッションは完了した。

「ぐ……さすがだ、カノ……ン。」

とってブレンダンは気絶した。

ていうか、何がお前をそこまでさせるんだ！！

「ああ！大変！大丈夫ですか？今、回復弾撃ちますね！」

ああ、大丈夫じゃねえよ、お前のせいだな。

……とまあ、いつもこんな感じでミッションに向かっているわ
けだ。

オマエらもカノンと一緒に気をつけるよ！

(後書き)

ほのぼの系を書いてみました！

ほかにもこんな感じのものを書こうとおもっているので、
よかったら感想でリクエストしてみてください！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9829p/>

ただ第二部隊がミッションにいくお話

2011年1月7日18時18分発行